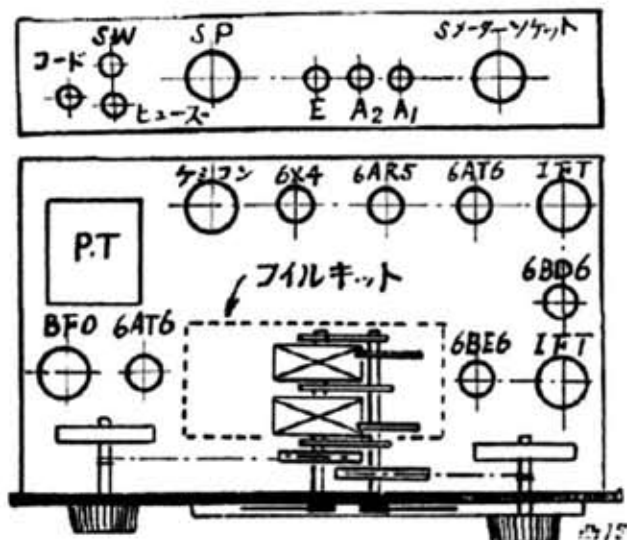




ーターアダプターを作つて下さい。これを使用する場合の配線は図の通りです。アダプター用の引出し口はシャーシ後部のU Yソケットを利用して下さい。

## 部品の取付

1) バック、BFO、バリコン、IFTは試験済みのものが取附済みのようになっておりますが、その他の部品は、スプリングワッシャを入れえしつかり取付けて下さい。



2) 指針が、バリコンの0°と100°でダイヤルの両終端線と一致するかどうか確認して、もし中れる場合は、目盛板又はバリコンを多少移動し、目盛板の中心とバリコンの軸を一致させて下さい。

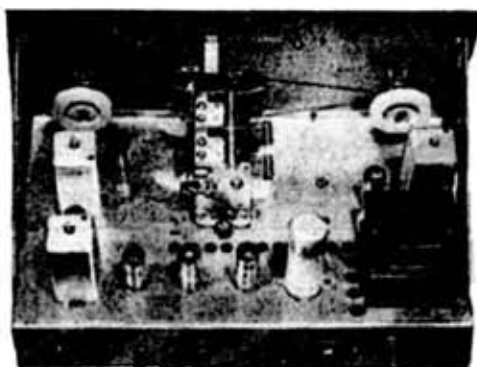
3) ミニアチュア管のソケットの向きは、実体図のように取付ければ配線が短距離にできます。ソケット取付け後電線は菊の花片のように外側に向けて直角に曲げて下さい。

4) 明型プラグ、1P、2P、3P プラグは、実体図を参照して取付けて下さい。

## 配線

部品の配置や配線要領は、実体図と、裏面写真を参照にすればよくおわかりになると思います。配線の順序は、ソケット面に取付けられた明型プラグを銅線探針線でご直結するアースラインよりはじまり、電源部→同調波→検波→中間同調波→高周波へと進められて行きます。6BE6付近はかなり配線合いますから、抵抗やチューブ等は、指定値のなるべく小型のものを選んで下さい。バリコンの固定板からのリードは、スイッチの共通接点へ半田付けします。主として注意すべき点を上げれば次のようになります。

- 1) バックからのリードは多少長めについているから、必要な長さに切りつけて下さい。
- 2) ミニアチュア管のソケットの中央のピンは必ずアースして下さい。6BD6のソケットで、このアースを取ると必ず中間同調トランスが共振いたします。

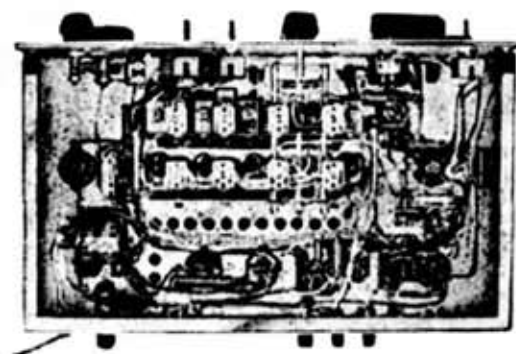


3) ミニアチュアソケットへ接続する配線は、多少のやわらから線を用い、電極が多少動くようにしておく必要があります。短い線で行いますと真空管を破損することがあります。

4) 半田付けはなるべく松脂を服用していただきたいのですが、やけを得ずペーストを使用するときは、ほんの少量用い、取付た後を拭きとつて下さい。電極やリードの先はあらかじめ半田を引いておけば美しい取付ができます。

5) 6X4のヒータは6.3Vですが高圧がかかりますから他の真空管と別にとつて下さい。

6) コイルバックのリードはJIS規格の色別けになっており、黄がG<sub>1</sub>、橙がG<sub>2</sub>、赤がP、緑がKです。



## 調整

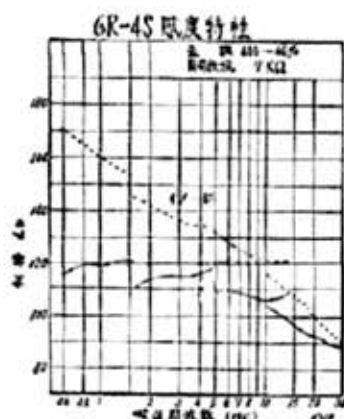
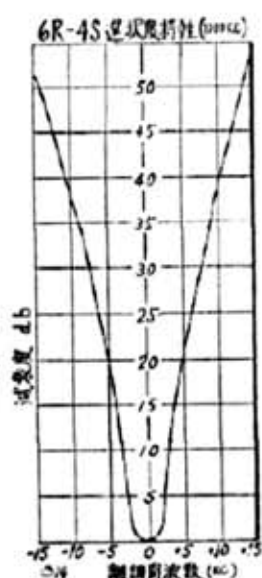
部品は全部テスト済みになっておりますから完成してスイッチを入れれば直ちに、送り出しますが放送管の入力容量の差や配線のやり方で多少誤差を生じますからわずかに調整（抽正）をした方が、一応高効率に働きます。調整にはテストオシレーターが必要ですがオシレーターの無い方でも後述する方法によれば安全な調整ができます。テストオシレーターを使用する方法A: ■と玉端子をシールドして赤いAの端子にテスト・オシレーター(T.O)の出力を400Ωの抵抗を通して接続します。出力の最大を30mAを10Vレンジにして、0.1μを通して6AR5のプレートとアース間へ接続します。これだけの準備ができたらT.Oから455Kの電圧をアンテナ

同調回路を感して、中間周波はIFTへ入りますから出力が最大になるようにIFTの各調整ネジを調整します。調整は一回転以内の筈です。

(この場合OSCバリコンはクリップでショートしバンドはAにしておく)

これでIFTの調整はOKです。次にトッキングを行います。OSCバリコンのクリップを外して下表のように調整を行います。

要するに、中波では周波数の低い方でパッチング、中間でダストコア、高い方でトリマーを合わせ、これを三回以上くりかえし目盛にピッタリ



一致させたのも高周波端で同調側のトリマーにより出力を最大にします。

B, C, D, バンドでは高低の二点だけ調整します。

ダイヤルの位置(OSC)の同調回路の調整点	調整点	備考	
A	500 K C 1400 $\Omega$	パッチング トリマー	は致り 一致さ せしめ る
B	1.6 Mc	コア トリマー	同調 回路 調整 点
C	4 $\Omega$ 5 $\Omega$	コア トリマー	同調 回路 調整 点
D	14 $\Omega$ 10 $\Omega$ 28 $\Omega$	トリマー コア トリマー	同調 回路 調整 点

註① スプレッドバリコンは常に0° (一杯抜き出した位置) に固定しておきます。

② 短波帯の調整中約 1Mc 離れて同じ信号 (イメージ) が入ります。受信機では高い方が本物、T. O. では低い方が本物ですから、本物に合わせ下さい。

③ 目の調整時に、引込み現象のため、受信点が若干ずれますから、ダイヤルで信号を追いながら音質の最大点を求めます。

#### ダスト・オッシレーターの無い場合

オッシレーターの無い場合は、しばらく無調整で使用して

各バンドで、目盛がどれほど揃っているか記録を取り、前表のようにOSC回路で高い方はトリマー、低い方はコアによる、周波数のわかつた位置をきながら目盛を合わせ、目盛が一致したら同調側トリマーを高周波端 (バリコンの80%内外出た位置の適宜の周波数でよい) でトリマーを合せ音量最大の点を求めます。これが終わった後中波の小さな放送を受けながらIFTを調整します。オッシレーターの無い場合は、一度に調整することは不可能ですから、常に、目盛をかけて行うべきです。これらの調整はキャビネットへ入れたまま底部から行うことができます。

#### BFOの調整

アンテナを外しておき、CWにスイッチを入れて、バリコンを回転して行くと 900KC 附近で、信号を感する筈です。これがBFOの第2高調波です。ピッチコントロールを半ば入った位置におき、910KC 付近で信号が受かるようにBFOコイルのダストコアを調整します。アンテナを接続して、短波帯に切換え、シグナルを受けながらピッチコントロールを回転すればビートが入る筈です。入らなければ入るまでBFOコイルのネジを回転します。これでBFOの調整は完了です。A. M. ではきこえない小さな信号もCWにスイッチを切換えれば存ぞ出して来るでしょう。

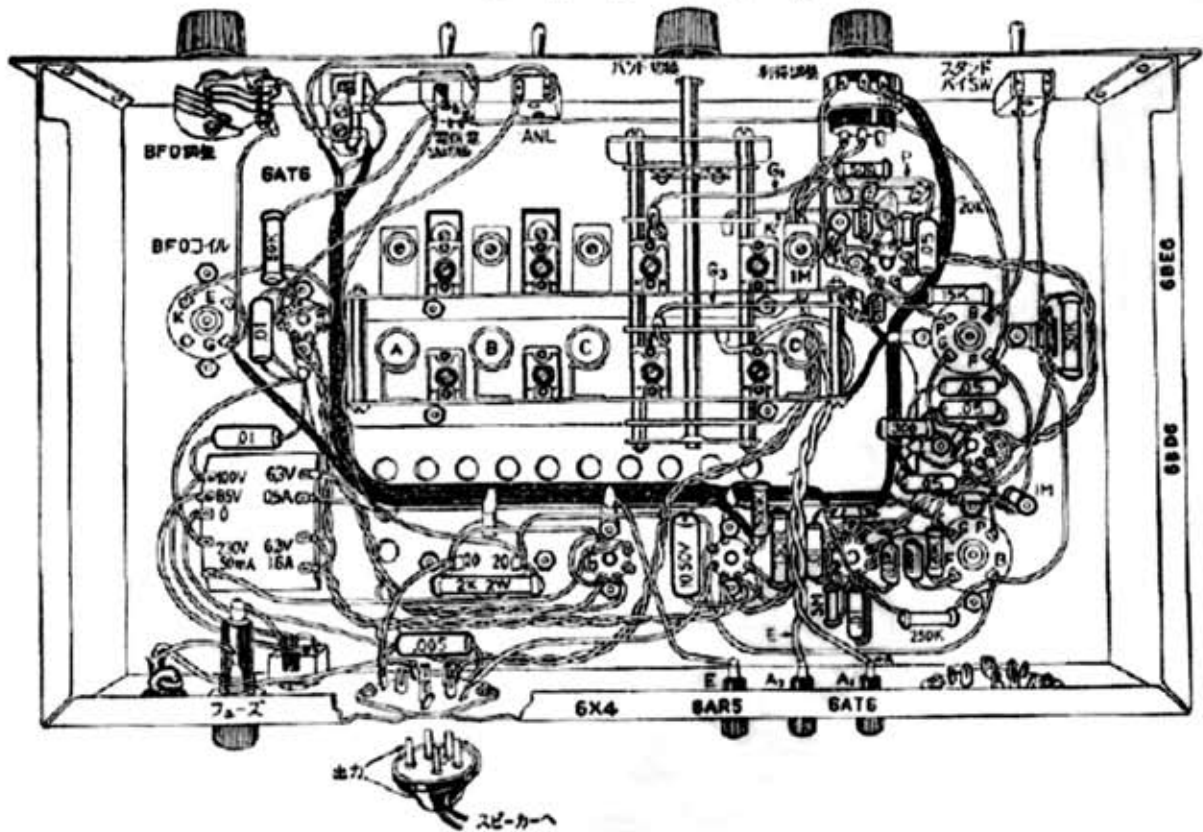
#### アンテナ

よいアンテナはRF増幅一段に相当すると言われております。アマチュア・バンドを主眼とする場合はタブレットアンテナを使用すれば高効率ですが、全般的な受信を行う場合は逆L型がよいと思います。アースアンテナは種類が多く、実効も低く非効率ですから、是非良いアンテナを作つて、DXをかせいで下さい。

### 6R-4S型 部品一覧表

品名	メーカー又は規格	数量	品名	メーカー又は規格	数量
キャビネット	トイ	1	6.3V チューブ		1
ダイヤル 調整		1	300 250W		1
IFT		2	200 1W		1
コアパッチ		1	2K 2W		1
BFO コイル		1	15K 2W		1
バリコン (スプレッド付)	アルスR-89	1	20K 400W		1
コア		5	20K 250W		2
スナップスイッチ	400V 2.5A	4	25K 200W		1
変圧器	100V	1	30K 200W		1
可変容量変圧器	100V	1	150 100W		1
ヒューズホルダー	R15式	1	500 100W		1
ターミナル		5	キャビネット	トイ	1
レバー		1			
右側 6R-4S ケットの穴で使用する部品は上記の通りです					
変圧器	250V 1.6A 250V	1	AC コード		2
400V	1.6A 250V 50MA	1	10mm プラチナ		70
400V	NF 文 (1.6A)	1	ヒューズ	R15	10
4A 75		1	レバー	調整	2
4A 75		1	2P コード		3
6X4		1	2P コード		1
電圧	250V 250V	1	ピッチ	A 25x6 mm	11
電圧	100V 250V	1	ナット	3 mm	2
250V マイカコン		1	ピッチ		12
100PF		1	スプレッド	2.5x10mm	12
0.01 チューブ		1	スプレッド	3 mm	12
0.05		1			

# 6R-4S 配線図と実体図



レシーバー・ジャックの端子位置が製品により異なる場合がありますから、配線図と実物とを良く比べて誤りの無いように配線して下さい。

